

# 森の駅伝大会

【漢字版】

もりの えきでんたいかい



作：近藤せいけん

その一

今日はまちに待った、一年一回の森の駅伝大会の日です。森の駅伝大会は、毎年秋、木の実が沢山なる頃に行なわれます。

スタートは大きなどんぐりの木から、青沼を渡って、そしてくり畑までの三つの区間で行なわれます。

どんぐりの木から青沼までが、一区間。青沼を渡って向こう岸までが、二区間。岸からくり畑までが三区間です。

赤組はきつねさん、いたちさん、たぬきさんのチームです。

青組は猿さん、かめさん、うさぎさん、のチームです。

いよいよ、スタートです。

審判はかっぱさんです。実況中継はとんびさんです。

一区。赤組はきつねさん、青組は猿さんです。

かっぱさんがスタートの笛を吹きました。

「よい〜ピ、ピ、ピ〜」

きつねさん、猿さんが、いきよいよ飛び出してゆきました。

とんびさんの実況中継です。

「いよいよ、恒例の秋の駅伝大会のスタートです。きつねさんが早い、早い、猿さんも早い。いまのとこの、どちらも同じです」

きつねさん、猿さんはがんばって、青沼の見える、丘の上まで来ました。きつねさんが猿さんに話かけました。

「猿さん、疲れたね。どうこの丘の上で、少し休んでゆかない。どう。」

「そうだね。一生懸命（いっしょうけんめい）走ったので疲れたね。そお、休むとするか」

「そうよ、そうそう、休もう、空のとんびさんもないし」

きつねが猿は丘の上で休みました。

「猿さん、おいしいはちみつを食べない。あげるよ」

と「はちみつ」を猿に渡しました。

「きつねさん、ありがとう。じゃあ、いただくよ」

「うわあ〜甘くて、とても、おいしい〜うまい、うまい」

狐さんが言いました。「疲れたので、少し横になるよ」

「あ、あ、いいとも、休んだら、一緒にスタートしよう」

猿さんは「はちみつ」を食べ、お腹が一杯になったので、うっら、うっらしていました。

横になりながら、猿さんは狐さんを見ましたが、向こうを向いて、横になったまんまです。

猿さんは声を狐さんかけました。

「もう、そろそろ、起きて、出発しよう」

でも、きつねさんは何も反応はありません。

変だなあと思って狐さんを揺り起こしました。突然パァ〜と煙が上がり、丸太になってしまいました。

「うわ〜あ、狐め、だましたな」とあわてて、青沼に向かいました。

青沼には、すでに、審判のかっぱさんが立っていて、狐さんと赤組のいたちさんのバトンタッチを確認していました。

いたちさんは青沼に飛び込み、すでに泳いでいました。

青組の二番走者、かめさんがいまや遅しと、猿さんを待っていました。「わあ～あ、かめさん、悪い、悪い、狐にだまされて遅れてしまった。ごめん、ごめん」

「大丈夫ですよ、猿さん、水は大得意です。まかして下さい」

## その二

とんびさんの実況中継です。

「赤組の二番走者、いたちさんはすでに、青沼に飛び込み、リードを広げています。やっと、今。猿さんが到着です。青組の二番走者かめさんにバトンタッチです。赤組。だんぜん、リードです」

かめさんが二区のスタートを切り、青沼をスーイ、スーイ泳ぎ始めました。どんどん、いたちさんに近づきました。かめさんが頑張りました。

「かめさんが早い、追いつかれてしまう」「そうだ、奥の手だ」  
私たちは、近づいたかめにむかって、「イタチペー」を放ちました。  
黄色い毒のガスが沼の上に広がりました。

「うあわ～危ない、もぐろう」  
とかめさんは、水中深くもぐり、水中遊泳です。  
私たちは「俺さまのイタチペーでかめは泳いで来られまい」

「俺さまの勝ちじゃ、ア、ファ、ハハ～」  
岸には審判のかっぱと三区の青組うさぎさん、赤組たぬきさんがまっています。  
突然、水面が泡たち、かめさんが現れました。

「うわあ～かめさん、がんばったね。ありがとう」

とんびさんの実況中継です。

「突然、水中より、かめさんが現れました。いたちさんを抜きました」  
「今、三区の青組、うさぎさんへのバトンタッチです。青組、リードです」  
「いたちさんが少し遅れて、赤組たぬきさんにバトンタッチしました。接戦です」

### その三

うさぎはピョンピョン走りました。すぐ後ろを、たぬきが追いかけてゆきます。差はちじまりません。

少し行った時のことです。

「うさぎさん、うさぎさん。ちよつと、止まってください」と後ろから呼ぶ声がしました。

うさぎは振り返りました。

審判のかっぱさんが駆けてきました。

「あれ、かっぱさん、どうしたのですか？」

「うさぎさん、道が違うよ。あっちの道がコースだよ」

「へえーあぶなく間違えるところだった。ありがとう、かっぱさん」

「どういたしまして、うさぎさん」「それじゃ、がんばってね」

「はい、ありがとう」

うさぎさんは引き返して、右の道に入り、走り続けました。

大きい竹やぶが正面に現れてきました。「あれ、道がだんだん無くなってきたぞ。おかしいな？」

そこで、空を見上げました。上空に実況中継のとんびさんが近づいて来ました。

「うさぎさん、うさぎさん、道が違うよ。そこは行き止まりだよ」

「え～え、だって、さっき、審判のかっぱさんが教えてくれた道ですよ？」

「え～何だって、審判のかっぱさんだって・・・」

「おかしいな。審判のかっぱさんはさっきから、ゴールのくり畑の前にいるよ」

「変だな。でも引き返さなければ。いそげや、いそげや～」

ゴールのくり畑の前からの、とんびさんの実況中継です。

「こちらはくり畑の前の、ゴール地点がらの実況放送です。」

「いよいよ、最終区間です。赤組か青組かどちらのランナーが最初に入ってきますか。さきほど、青組、うさぎさんがコース間違えで、かなりのロスをしていましたが、はたしてどうでしょうか」

「最終ランナーが見えてきました。だんだん近づいてきました。」

「大歓声がおきています。きつつきさんがカン、カン、かっこうさんが、カッコウ、カッコウ。はとさんがクルクルクー。いのししさんがブル、ブル～。熊さんが大きな手でパンパン、パン。大変な騒ぎになっています」

「あれ、何でしょう。あれはまさか。ランナーは審判のかっぱさんです。応援の森の仲間も皆な、驚いています」

「かっぱさんとかっぱさん。どうしたことでしょう」

「こちらにいる審判のかっぱさん、駆けてくる、ランナーのかっぱさんは、いつたい、誰でしょう？」

「私も空から降りて、そばで見ますので、とんびの実況中継を終わります」

ゴールにいる、審判のかっぱさんが笛を吹きました。

ピーピーピ～大きな音がくり畑に木霊（こだま）しました。

ランナーのかっぱさんは今、まさにゴールのテープを切るところでした。大きな音に驚いて、パア～と煙が上がりました。

「あれ～あれはたぬきじゃ、たぬきじゃ～かっぱさんに化けていたんだ」

「何で、審判のかっぱさんに化けたんじゃろう？」

とんびさんの出番です。

「それは、コースの途中で、たぬきさんが審判のかっぱさんに化けて、うさぎさんの走るコースを変えさせたんじゃ。ずるをしたのじゃ」

かっぱの審判が怒りました。

「たぬきの不正行為により、たぬきチームの失格！」

たぬきは急いで走っていたので、もとに戻るのを忘れてしまったのです。

たぬきは下を向いて、顔を真っ赤にしてショボンとなりました。

その時、青組のうさぎさんが入ってきました。

ゴールのテープを切りました。

またまた、とんびさんの実況中継です

「ただいま、青組のうさぎさんがゴールしました。森の仲間が大きな歓声をあげています。青組の猿さん、かめさん、そしてうさぎさんが熱い握手をかわしています。美しい光景であります」

赤組のきつね、いたち、たぬきチームはその場にいられず、いそいそと、森に帰って行きました。

「正直者は必ずむくわれる」と言う事です。

勝ったご褒美に、柿や、くり、どんぐりをたくさんもらい、仲良く分け合いました。